

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1971100126
法人名	社会福祉法人 芳寿会
事業所名	グループホーム 回生荘
所在地	〒 402-0033 電話番号 0554-45-5211

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年8月21日	評価確定日	平成19年9月27日

【情報提供票より】平成19年8月8日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10人	常勤	3人 非常勤 7人 常勤換算 3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2	階建ての	1 ~ - 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,869 円	その他の経費(月額)	45,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(100,000) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり 1170 円			

(4) 利用者の概要 平成19年7月1日 現在

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	6 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.8 歳	最低	78 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	回生堂病院 ・ 米山歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年9月2日

自然環境にも恵まれ併設の施設として、特別養護老人ホームやデイサービスがあり、お互いの交流が気軽に出来ている。また、たまにはデイの大風呂に数人で入り入浴を楽しむ事もできる。室内は広々として清潔感があり、各居室とホールからのテラスも開放的で、利用者の日常生活を支援している全職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をせず、笑顔で共に過ごす姿勢があり、利用者の安心した生活を支えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 過去2回の評価で改善課題となった案内板の設置については、手作りの案内板が4ヶ所に設置されているが、広い敷地内なので併設施設の入口付近にも設置を検討中。事業所独自の理念については、母体組織の基本理念を中心とした方針と事業所独自の表現に苦慮しており、改善点について母体組織と話し合いが行なわれている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 日々のサービスの提供について客観的に振り返り、改善すべき点を勉強会やミーティングで確認し全職員共有して、提供するサービスに活かす前向きな姿勢がある。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は7名で構成されており、老人クラブの会長さんに会議のメンバーになってもらった事がきっかけで老人クラブの方々が見学に来たり、レクレーションの講師の紹介など多くの情報を得たり、市の担当者とは、勤務表や人員確保、利用者の決定等について相談する事もあり、サービスの質の向上に共に取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 処遇アンケートの実施や家族会開催の折、サービスの内容についての意見や不満、苦情が気軽に言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。家族の希望により手作りの温かい意見箱が最近設置された。家族の訪問時や定期的な報告の時には、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の移動等について個別に報告がなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近所に保育園があり、園児の散歩コースにホームの前を通ってもらえるよう依頼したり、ホームの運動会には、応援団として参加してもらって交流を深めている。今後は、老人クラブの行事にも参加していきたい。

2. 調査報告書

事業所名: グループホーム回生荘

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所及び職員は、常に利用者の意思や人格を尊重し、明るく家庭的な雰囲気の中、地域と家庭の連携を重視した運営を心がけ、本人の立場に立ったサービスの提供と質の向上を図っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の3ヶ所の壁に、母体組織の基本理念が大きく掲示されているが、事業所独自のものではない。	○	管理者と職員は地域密着型サービスとして何が大切かを十分理解しているものの、母体組織の基本理念を中心とした方針と事業所独自の理念の表現に苦慮しており、改善点について母体組織と話し合いが行なわれている。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所に保育園があり、園児の散歩コースにホームの前を通ってもらえるよう依頼したり、ホームの運動会には、応援団として参加してもらって交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かした具体的な改善として、前回の評価時にはなかったホームの案内板が手づくりで、4ヶ所に設置されており、自己及び外部評価を契機として日々のサービス提供について客観的に振り返り、改善点について全職員共有して取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は7名で構成されており、老人クラブの会長さんに会議のメンバーになってもらった事がきっかけで老人クラブの方々が見学に来たり、レクレーションの講師の紹介など運営推進会議にて多くの情報を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、勤務表や人員確保、利用者の決定等について相談することもあり、サービスの質の向上に共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の移動等について、家族が訪ねて来た折に報告することはもちろんの事、定期的な報告と本人や家族の状況に合わせて個別の報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	処遇アンケートの実施や家族会開催の折、サービスの内容についての意見や不満、苦情が気軽に言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。家族の希望により、手作りの温かい意見箱が最近、設置された。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去において、管理者の配置異動が2回、常勤職員が結婚による退職1回となっているが、やむをえない場合以外は、極力異動は行わず固定した職員によるサービスの提供に心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて外部の研修に参加し、知識技能の修得に努めたいと考えているが、本年度は取り組めていない。	○	職員は、研修参加について前向きに希望しているので限られた職員体制の中、研修機会を確保するためには、年間計画の中で研修を位置づけていく工夫が望まれます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣に同業者がないので取り組みが出来ないとしているが、全国組織のネットワークには加入している。	○	全国組織のネットワークの活用、県内各地域の同業者との交流や連携の必要性を認識し、それを具体化させる取り組みが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所の見学を行なった際、職員や他の利用者、場の雰囲気に馴染めるよう無料で食事を提供することやお茶の接待もあるが、体験入居は行っていない。利用に際しては使い慣れた家具や調度品等を居室に配置して居心地の良い馴染める居室づくりを家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が手を動かす動作をしているのを見た利用者から肩もみしてもらいたいわってもらったり、ことわざや料理を教えてもらう等、普段から共に過ごし支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がポットを動かそうとしている場面を見た職員は、危ないと思ったが本人の気持ちを聞いた所、ポットの下のおぼんが自分の物と思い取ろうとしていることが分かり、本人にもうしばらく貸して下さいと声かけして理解してもらおう等、思いや意向の把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別の介護計画作成時に家族との話し合いが出来ていない利用者もいるので全利用者とその家族に説明をして一緒に話し合いを行なうよう取り組んでいく。	○	家族が訪問された時を利用して、本人や家族の要望を聴くなどしてそれぞれの意見やアイデアを反映した本人本位の介護計画となることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月一回スタッフ会議が開催されている。短期間の見直しは、モニタリングを実施しており、利用者の状態変化や状況によっては新たな計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用の条件が要介護1～要介護3となっているが、要介護3の利用者が短期間入院となり、介護度も3～5になったが本人と家族の馴染みの事業所という希望に添って柔軟な支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるよう、本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医に通院したり往診が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介護度3の利用者の状態が悪化し入院、介護度も5の状態となったが、馴染みの事業所に戻りたいという本人と家族の希望を事業所は受け止め、かかりつけ医の往診を受けることなど対応方針を全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をせず、笑顔で共に過ごす姿勢があり、利用者の落ち着いた生活につながっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムや希望を優先し、日々のその人らしい暮らしの支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	収穫したジャガイモを使って和気合い合いとコロケ作りを行ない、小麦粉、たまご、パン粉など利用者と職員と一緒に楽しく作り、片付けの時にも、自主的に洗い場に立つ利用者の姿がありました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日が月曜日と金曜日の昼のみの対応となっている。不定期であるがデイサービスのお風呂に数人で入ることもある。	○	入浴時間を夕方にすることを検討中だが職員のローテーションで困難な場合もあるが、曜日や時間帯が一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援できるような検討が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴の把握を行なう中で本人の望む事を知る努力をしており、玄関の掃除を一日に何回も行なう利用者にはその人にあわせた支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩はもちろんの事、買い物、ドライブ、外食など外出の支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵がされて自由に出入りすることはできませんが、居室の掃きだしやテラスからは自由に入ることができる状態にあり、利用者が玄関から外出したような様子を察知したらさりげなく声をかけたり一緒について行く等自由な生活を支えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	都留市消防署と非常時の応援を約束しており、年1～2回消防署の指導を受けて非難訓練を実施。自衛消防隊の組織や非難経路もたてられているが、地域の人々の協力が得られるよう働きかけができていない。	○	かなりの災害対策がとられているが、全職員の消火器の使い方や地域の消防団や地域の人々の協力が災害時に得られるようさらなる働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食日誌に各自の摂取量を記入して確認し、併設の特養の栄養士に相談したり、状態において栄養摂取や水分の確保ができるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共有空間は清潔感があり、不快な音や光がないよう配慮されており、四季折々の飾りつけ等して季節感や生活感を取り入れ居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に生活歴を知りたいと話した所、利用者の幼児期の写真、女学生時代の写真、ご主人との写真などを手作りのアルバムにして持って来て居室に置かれていて使い慣れた家具と共に本人の安定剤となっている。		